

自 己 評 価 書

(令和 3 年度)

令和 4 年 3 月

鳴門教育大学附属中学校

目 次

I 学校の現況及び目標 1

II 重点目標に対する自己評価 2

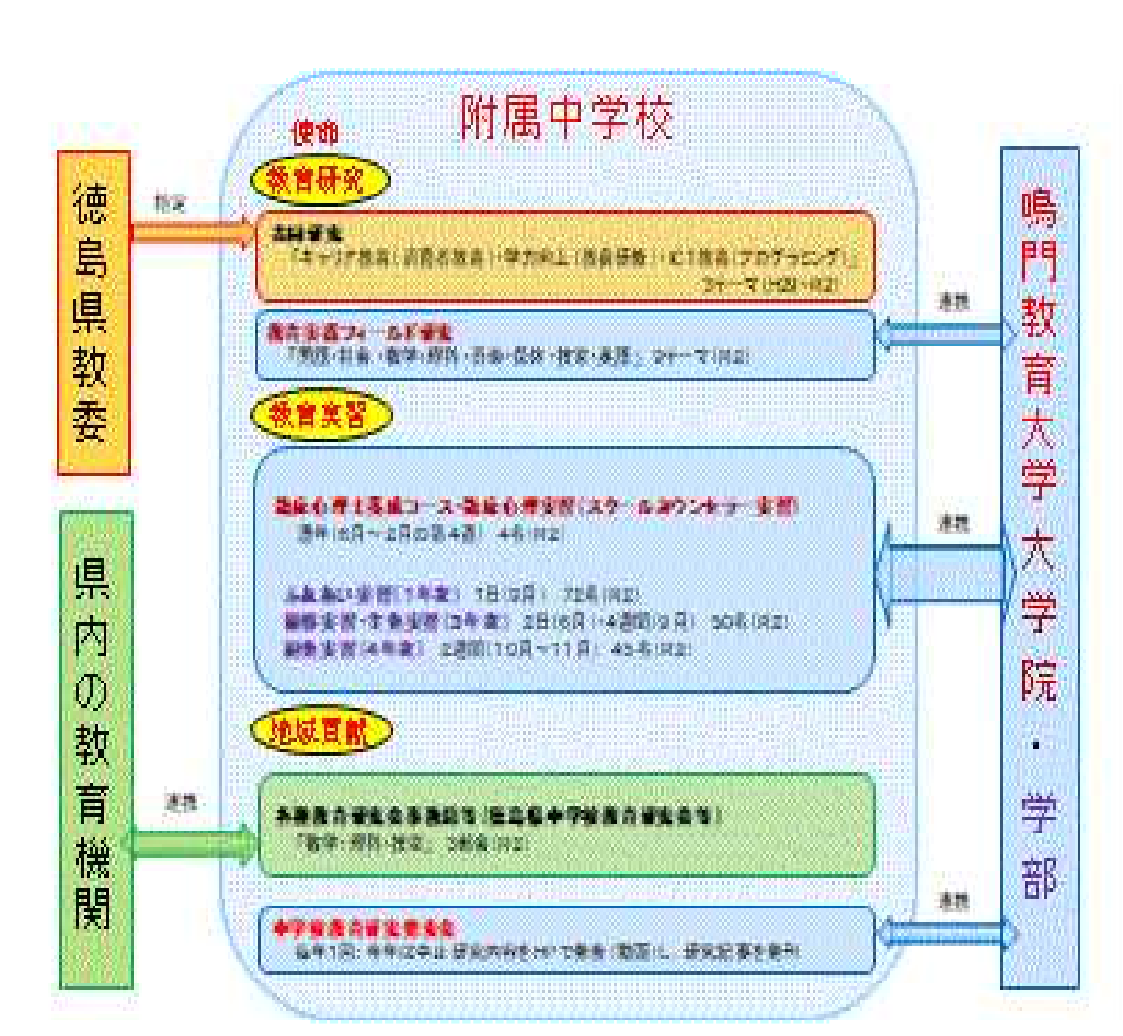
1 主体的・対話的で深い学びの実現 2

2 いじめの防止 8

3 基本的な生活習慣の徹底 13

III 自己評価根拠資料一覧 17

本校の使命に関する取組状況



I 学校の現況及び目標

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
 - 1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
 - 3 学年 4 学級 計12学級
- (4) 生徒数及び教員数(令和3年5月1日)
 - 生徒数 399人 教員数 25人(正規教員)

2 目標

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ② 鳴門教育大学の学部学生の実地教育（教育実習）及び大学院生との教育実践研究等を行う使命
- ③ 教育界の課題の解明に努め、関係機関と連携し、本県中学校教育推進に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 優しく思いやりの心を持ち、人の気持ちのわかる生徒
- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強い意思と体をもつと共に、しなやかに生きる生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- ゆるぎない使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師
- 強い責任感をもって、何事にも丁寧な対応ができる教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 令和3年度重点目標（実践事項）

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
 - ア 生徒の自己調整の過程の具体化と自己調整を促す手立ての工夫
 - イ GIGA スクール構想の推進
- ② いじめの防止
 - ア 人を思いやる言動や、周りへの気配りができる集団づくり
 - イ 温もりのある居心地のよい環境づくりの推進
- ③ 基本的生活習慣の徹底
 - ア 校内で出会う全ての人への元気なあいさつの習慣付け
 - イ 時間の厳守や清掃等、決められた事が確実にできる集団づくり

(4) 令和3年度評価項目（評価指標）

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現
 - ア 保護者対象アンケート（7月と2月に実施）
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）
- ② いじめの防止
 - ア 保護者対象アンケート（7月と2月に実施）
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）
- ③ 基本的生活習慣の徹底
 - ア 保護者対象アンケート（7月と2月に実施）
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）

Ⅱ 重点目標に対する自己評価

重点目標 1 主体的・対話的で深い学びの実現

令和3年4月より、新中学校学習指導要領が全面実施となった。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、育成を目指す資質・能力が、「生きて働く「知識・技能」の習得」、「未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養」の三つの柱に整理された。各教科の目標及び内容についても、この三つの柱に基づいて再整理された。

本校では、これまで3年間、主に「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成のための実践や研究に重点を置いてきた。そこで、今年度から、「学びに向かう力、人間性等」の育成に向けた研究に取り組むこととし、「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当てた。特に、生徒が自らの学習を調整しようとする側面に注目した。

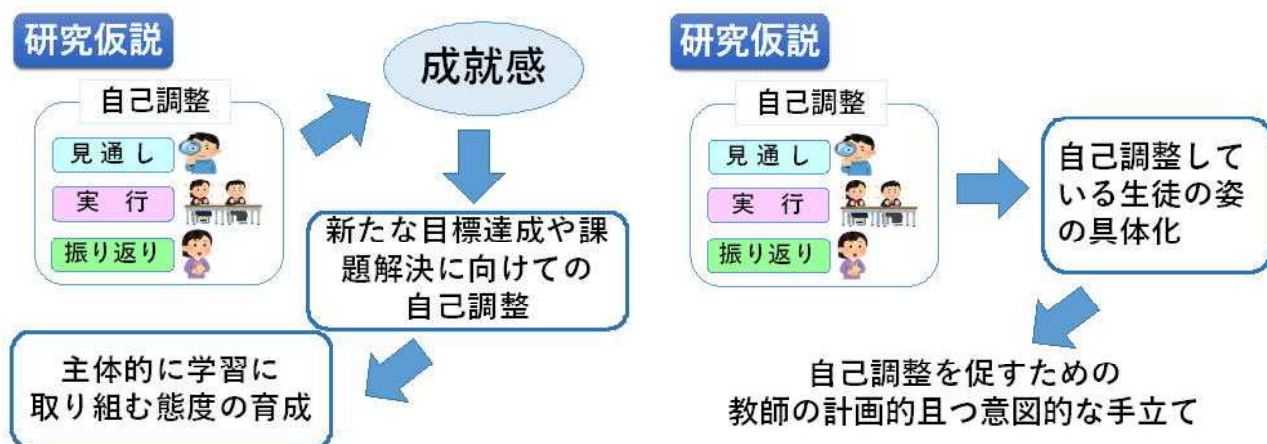
本研究では、アメリカの教育心理学者であるジーママンらの「自己調整学習」の理論を参考にし、生徒が自らの学習を調整しようとすることを、「自己調整の過程」として、「見通し」・「実行」・「振り返り」の3つの場面に整理した。3つの場面での生徒の姿を具体化し、実現に向けて、次のような手立てを工夫した。

- 学習計画を立てたり振り返りを行う場面の設定とワークシートの工夫
- 話し合いの場や意見を共有する場面の設定などの授業展開の工夫
- 発問の工夫
- ICT機器の活用やホワイトボードの工夫

このような手立てを生徒の実態や学習状況に合わせて用いることで、生徒は学習において自己調整できるようになり、新たな目標達成や学習課題解決に向けても、この過程を基に自己調整し、主体的に学習に取り組むことができるようになると考えている。

また、今年度からGIGAスクール構想の推進が学校の大きな課題となっている。一人一台タブレットを有効に用いれば、主体的に自分で調べたり、グループやクラス全体で話し合ったり、考えをまとめて深め合ったりすることが、これまでよりずっと行いやすくなる。また、教師は生徒の学習状況を把握しやすくなり、必要な手立てを必要なときに講じることができるようになる。今回の研究においては、GIGAスクールの環境を十分に生かし、研究主題である主体的に学習に取り組む態度の育成につなげていきたいと考えている。

【 自己調整に着目し、主体的に学習に取り組む態度の育成に取り組んだ実践 】



数学科の実践

第2学年「確率」

学習課題

☆3つ○2つ×1つのさいころを2個同時に投げるとき、どの目の組み合わせが最も出やすいだろうか。



数学科の実践

手立て 見通しを持つ時間と共有の場の設定



見通しを持つ時間と
とり、ノートに記述

ペアで見通しの共有

全体で確認



数学科の実践

結論

組み合わせ	確率	組み合わせ	確率
☆と☆	$\frac{1}{4}$	☆と×	$\frac{1}{6}$
☆と○	$\frac{1}{3}$	○と×	$\frac{1}{9}$
○と○	$\frac{1}{9}$	×と×	$\frac{1}{36}$

☆と○が出る確率が最も大きいから、
☆と○が最も出やすい

数学科の実践

手立て



ノートを見返すことによる
既習事項の確認



ホワイトボードによる
問題解決の様子の可視化



実物を見せることによる
場合の数の求め方の確認

手立て（見通し）

保健体育科 動画の撮影

自分たちの実技を動画に撮り、自分の状況を把握し、改善の視点を持たせる。



授業のはじめに撮影した動画 授業の終わりに撮影した動画

手立て（実行）

英語科 学習支援アプリ

- ・教師が生徒の学習状況を把握する。
- ・生徒同士が考えを共有する。



手立て（見通し・振り返り）

社会科 自己調整お助けシート



成果

数学科 第1学年「データの活用」単元の振り返り

多面的に考え、考えた。他ひとの意見を比較対比し、自分の改善点や、同じところ、自分の意見をよりよく考えることができ、思ったより、他の人に自分の意見を発表することが、他ひとより上手であり、特に、外に発表することが、自分にできる自信につながった。この考えを継続していきたい。

自己調整をしようとする意思

2 評価項目の状況

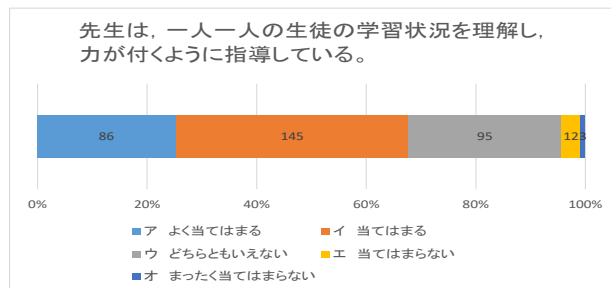
(1) 保護者対象アンケート

「先生は一人一人の生徒の学習状況を理解し、力が付くように指導している」

目標80%以上

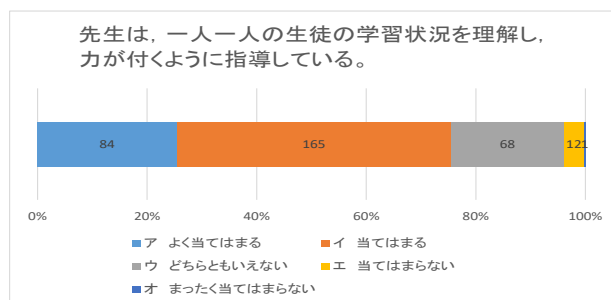
第1回（7月）67.7%（昨年度76.0%）

よく当てはまる	25.2 %
当てはまる	45.5 %
どちらとも言えない	27.6 %
当てはまらない	3.5 %
全く当てはまらない	0.0 %



第2回（2月）75.5%（昨年度78.9%）

よく当てはまる	25.5 %
当てはまる	50.0 %
どちらとも言えない	20.6 %
当てはまらない	3.6 %
全く当てはまらない	0.0 %

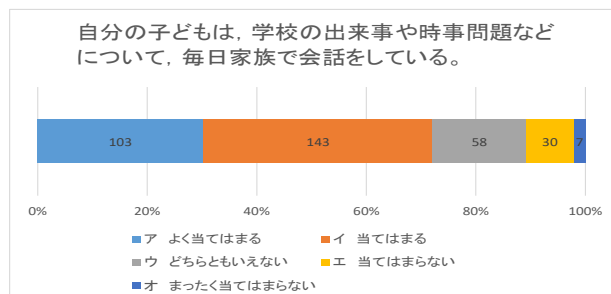


「自分の子どもは学校の出来事や時事問題などについて、毎日家族で会話している」

目標80%以上

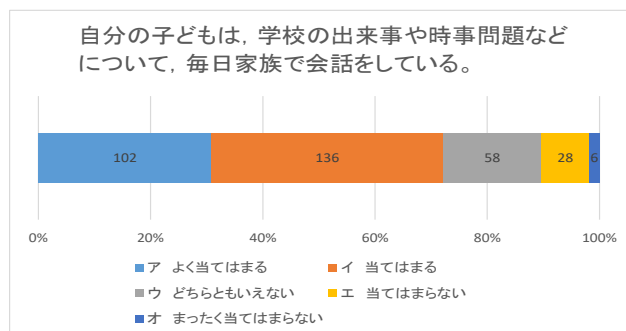
第1回（8月）72.1%（昨年度75.7%）

よく当てはまる	30.2 %
当てはまる	41.9 %
どちらとも言えない	17.0 %
当てはまらない	8.7 %
全く当てはまらない	2.1 %



第2回（2月）72.1%（昨年度73.6%）

よく当てはまる	30.9 %
当てはまる	41.2 %
どちらとも言えない	17.6 %
当てはまらない	8.5 %
全く当てはまらない	1.8 %



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 生徒の自己調整の過程の具体化と自己調整を促す手立ての工夫

当初申告	最終申告	評価
球技において、男女の技能・体力の違いを考慮したゲームの行い方を工夫する。ルールを生徒自らが考える場面を各単元で2時間以上設定する。	コロナ禍での制限がある中、球技では男女混合のチームで活動し、生徒自らが練習の仕方やゲームの行い方を工夫する場面のある授業づくりができた。	A
生徒が自ら問題を発見し、課題を設定する場面を各題材に取り入れるとともに、自己調整をサポートするワークシートを作成し主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	1年生では、整理整頓に関する問題を見いだす活動、2年生では、災害発生時の問題を見いだす活動、3年生では、地図コンテンツで解決できる地域の問題を見いだす活動に取り組み、自己調整をサポートするワンペーパー・ポートフォリオを作成し、授業で活用した。	A
学習過程も生徒自らが問題を発見し課題を設定できるよう、シミュレーションやパフォーマンス課題などを取り入れる。	学習形態や学習過程について課題探究的な学習やシミュレーション、パフォーマンス課題などを取り入れて工夫することができた。	A
問題解決型の授業を全授業時数の75%以上実施し、生徒が自己調整しながら学習を進める中で、資質・能力を育成できるようにする。	75%以上の実施を行うことができ、生徒が思考する場面を多く設定することができた。	A
昨年度の研究内容を基に、生徒が現在の学習状況を把握し、これからの学習と過去の学習内容とのつながりを意識できるような理科の学習ロードマップを作成し、活用する。	生物分野と地学分野の学習ロードマップを作成し、各単元ごとの学習内容を授業後に振り返り、記入させる学習活動を継続して行った。これにより、実験などの考察内容に過去の学習との関連を考えようとする記述が増えたり、学習ノートを見返すなどの行動が授業中多く見られるようになった。	A

イ GIGA スクール構想の推進

当初申告	最終申告	評価
対話的な学びを行う学習活動において適切にタブレット端末を活用し、学習効果を高める工夫を行う。	MetaMoji の機能を活用し、グループで書き込みと編集ができるシートを作成し、問題を解決するための課題をグループで考える活動に取り組んだ。	A
一単元に一度は、学習課題解決のためのツールとしてタブレットを使用した授業を行う。	毎時間パワーポイントを用いて授業を行い、映像や画像で興味・関心を持たせたり、指示や発問をスライドに示すなどを行った。学習課題のための情報収集を生徒が各自で行ったり、意見の共有・資料の提示をメタモジで行ったりした。生徒は意欲的に	A

	自ら課題解決を図れていた。	
各単元末の自己表現活動（プレゼンなどの発表）をする際の補助資料として MetaMoji や Teams, iPad などを使用する。	単元末のパフォーマンステストでは MetaMoji を使用した。自己表現活動として、Teams を用いて英作したり、MetaMoji で調査結果をまとめてポスターセッションを実施した。また、小学生へのビデオレター作成時には iPad も使用した。	A
学習が進んでいる生徒に対して発展的な課題を MetaMoji を通じて、単元に1つ以上提示できるようにする。	MetaMoji に発展的な内容のプリントを入れておき、学習が進んでいる生徒には、その問題に取り組むように促した。	A
MetaMoji のワークシートや授業アンケート等を活用して、生徒の学習の躓きを把握し、躓きの内容に応じた授業内容の改善を行う。	MetaMoji や、teams を活用した学習を、必要に応じて展開することができた。MetaMoji で作成したワークシートやロードマップの記述内容の分析から、どのような内容が印象に残りったり、反対に残っていないかを見取することで、次の授業への改善に活かすことができた。	A

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 新学習指導要領が本年度より全面実施となった。本年度は、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に視点を当てた学習指導を各教科で実施し、学校全体で研究に取り組んでいる。具体的には、自己調整（生徒が目標達成や学習課題解決に向けて、自らの学習状況を把握しながら、見通しを持ち、それを基に選択した方法を実施し、その過程や結果に対して振り返ること）に着目し、その成果を6月の研究発表会で発表することができた。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、県内教職員は対面参加、県外参加者はオンデマンド配信とした。例年よりも参加者が増え、研究の成果を広めることができています。
- 全国学力・学習状況調査の知識・活用問題における平均正答率が、ともに全国国公立中学校の平均正答率を大きく上回っている。
- 今年度より、一人一台タブレットが整備された。MetaMoji の機能を活用し、資料提示やワークシートの配布回収を能率的に行うことができるようになった。また、対話活動は、感染予防の観点から、距離を確保したり、フェイスガードを着用したりする制限を設けざるをえないが、タブレットの機能を用いて、生徒同士のコミュニケーションをとる多くの工夫をすることができている。この様子は研究発表会でも参観者に示すことができた。

(2) 改善を要する点（課題）

- 保護者対象アンケートを見ると「先生は一人一人の生徒の学習状況を理解し、力が付くように指導している」に関する項目の評価が前期は低くなった。新型コロナウイルス感染症の影響で、授業参観を含め学校に来ることが全くない状態での質問であったため、状況がわかりにくかったことが考えられる。後期は、わかる授業を行うことの大切さを改めて確認して実践した。また、各学年1回ずつの参観日を設けることができた。その結果、数値は昨年の値近くまで回復した。
- 「自己調整」や「ねばりづよさ」に視点を当てて、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図っている。具体的にこのことをどのように評価していくか、評価基準や実際の例を示

していく必要がある。

- 新学習指導要領全面実施の趣旨を実現するためにも、タブレットパソコンをより有効に利用することで、「主体的に学ぶ態度」の育成につなげていく必要がある。

以上の内容を総合し、4段階中の「 B 」と判断する。

自己評価の基準	A 十分達成されている
	B 達成されている
	C 取り組まれているが、成果が十分でない
	D 取り組みが不十分である
* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ	

重点目標 2 いじめの防止

「いじめ防止対策推進法」では、「いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう」と定義している。その上で、学校は、その学校の実情に応じ、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針「学校いじめ防止基本方針」を定めるものとすると規定している。さらに、学校におけるいじめの防止として、児童等の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならないと定めている。

本校でも「学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの防止・早期発見・対処をより徹底するようにしている。具体的には、「ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から複数の教職員で的確に関わり、いじめを隠したり、軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する」ことを徹底し、いじめ防止のための組織や相談体制を整備してきた。また、月1回、生徒指導委員会を開催し、各学年で気になる生徒の情報を出し合い、学校全体で共有するようにしている。

学校生活アンケート（年3回実施）やQUテスト、生活習慣（健康）に関するアンケート等を実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、結果を周知する際に、担当者（生徒指導とは別にいじめ防止担当を配置）から生徒へ向けたメッセージを加えることで、学校の思いを伝えるようにしている。また、結果を分析し、取組が適切に行われた否かを検証し、期待するような指標等の改善が見られなかったような場合には、その原因を分析し、取組内容や取組方法の見直しを行ってきた。

道徳教育の充実を図るため、道徳の時間を実施する前には、学年団で内容や発問を検討し、事後には生徒の反応や指導方法のあり方の検討を行うようにした。1年生では、学年当初にアサーション（「アサーション（assertion）」とは、「自己主張」という意味の単語で、相手と対等な立場に立って自己主張をするためのコミュニケーションスキルのこと）を取り入れ、相手の主張を否定したり、強い口調で無理に押し込めるのではなく、お互いの価値観を尊重しつつ、自分の意見を的確に言葉にするための練習を行った。また、2年生では、全体道徳を行い、できるだけ多くの考えを聞くことで、考えを深めさせ、実践力を高めるように取り組んでいる。

自分の考えを伝える力を育てることがいじめを防ぐことにつながるのととの考えのもと、各教科等では、ペア活動やグループ学習での話し合い活動を重視した。また、コロナ禍のもとでも、これまで附属中学校が行ってきた様々な学校行事を感染対策を施した上で実施し、豊かな心を育てたいと考え、実践した。

しかし、学校生活アンケートでは、人のいやがる発言する生徒の存在や、そのことで苦しい思いをしている生徒がいる事実もある。生活が落ち着いているように見えても、子供たちの生活にしっかりと目を配っていく姿勢で臨んでいきたい。

○アサーション（1年生）、全体道徳（2年生）



○ペア学習，グループ学習



○学校行事



文化祭



文化祭



体育祭



修学旅行（彦根城）



1年遠足（四国水族館）



観劇（於 教育会館）



模擬県議会



LF（生き方を考える時間）



揮毫式

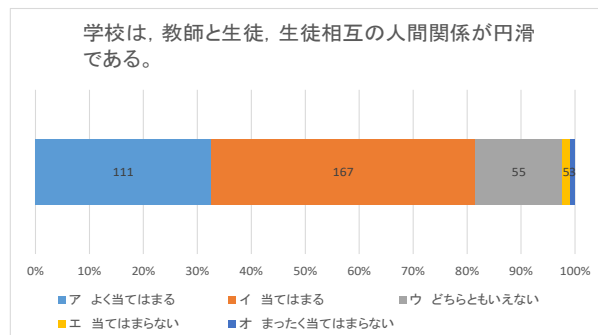
2 評価項目の状況

(1) 保護者対象アンケート

「学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である」 目標80%以上

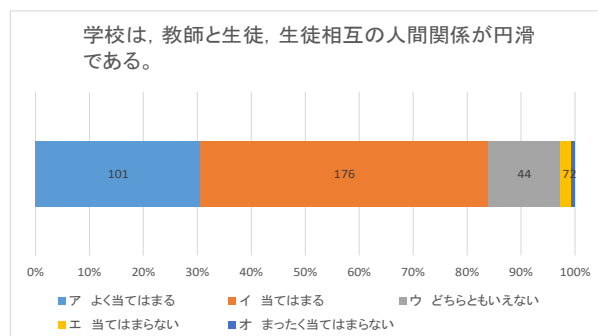
第1回（8月）81.5%（昨年度85.6%）

よく当てはまる	32.6 %
当てはまる	49.0 %
どちらとも言えない	16.1 %
当てはまらない	1.5 %
全く当てはまらない	0.9 %



第2回（2月）83.9%（昨年度81.4%）

よく当てはまる	30.6 %
当てはまる	53.3 %
どちらとも言えない	13.3 %
当てはまらない	2.1 %
全く当てはまらない	0.6 %

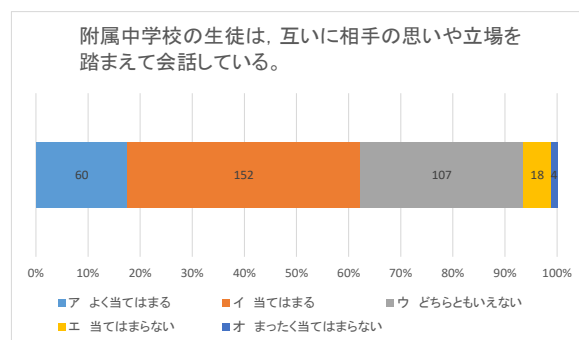


「附属中学校の生徒は、互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」

目標80%以上

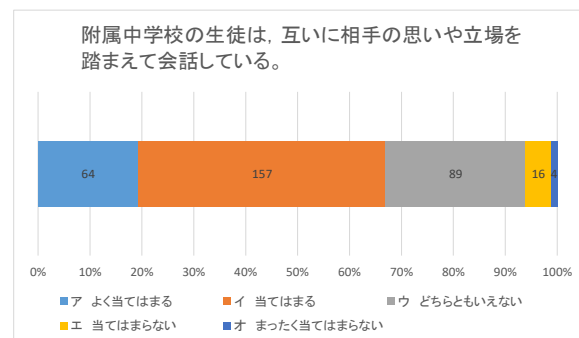
第1回（8月）62.3%（昨年度73.9%）

よく当てはまる	17.6 %
当てはまる	44.6 %
どちらとも言えない	31.4 %
当てはまらない	5.3 %
全く当てはまらない	1.2 %



第2回（2月）67.0%（昨年度74.7%）

よく当てはまる	19.4 %
当てはまる	47.6 %
どちらとも言えない	27.0 %
当てはまらない	4.8 %
全く当てはまらない	1.2 %



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 人を思いやる言動や、周りへの気配りができる集団づくり

当初申告	最終申告	評価
グループエンカウンターを月に2回計画的に実践し、生徒同士の人間関係の醸成に努める。	帰りの学活でクイズやゲームなどを当初は自分が進行役で行っていたが、次第に生徒が自ら進行したいと言い、活動内容を提案してくれるようになった。全員が楽しく活動し、温かい雰囲気生まれ、どの生徒が笑顔で帰っている姿を見ると、人間関係の醸成に有効であったと思う。アンケートの結果も、目標を達成できた。	B
休み時間はできるだけ廊下や教室を見回り、生徒に声をかける。	休み時間や空き時間に教室を見て回り、生徒に声をかけることはおおむねできた。学年外の生徒にも声をかけることができた。	A
道徳・人権の授業を毎回、学年団で協議し、より良い授業を作る。	各担任の導入の方法や発問例を紹介し合い、より良い授業に向けて毎回、協議することができた。また、授業後も授業実践の反省を学年団で共有することができた。	A
生徒の人間関係等の情報を学年間などで報告・共有し、いじめやトラブルの未然の防止に協同で努める。	教員間での情報交換や情報共有を積極的に行い、トラブルの未然の防止や、発生時の対処に協力して当たることができた。	B
学期末に現在の教室を振り返せるアンケートを実施し、生徒自らがクラスの現状を把握できるようにする。	学期末に自らの生活を振り返るワークシートを活用し、今のクラスを100点満点中何点か評価させた。7割の生徒は80点以上と評価しているが、3割の生徒は50点以下の評価をしており、クラスに対する考え方を視覚化することができた。	B

イ 温もりの有る居心地のよい環境づくりの推進

当初申告	最終申告	評価
生徒の居場所づくりに努め、学年道徳や学活などで構成的グループエンカウンター等の授業を計画・実施する。	学年道徳や学年学活の計画・実施はおおむねで来たと思う。問題行動については傾聴姿勢で聞き取り等を行ったが不登校傾向の生徒に対しての登校刺激は難しいと感じた。	B
学活等できるだけ生徒のよいところを紹介し共有し合う場面をつくる。	帰りの学活やその場を用いてできるだけ周りの生徒たちにわかるようにほめることに務めた。	B
居心地のよい教室（ぴちぴち教室）をつくらたり維持したりするポイントを生徒に示	振り返りシートを作成し、7月2日からこの実践を始めた。振り返りシートは、8つ	

<p>す。そして、それらの達成のための自分の言動を毎週末に振り返らせる機会を設定する。その振り返りの結果を、学級通信や黒板メッセージを使って全体共有し、意識の向上を常に図れるようにする。</p>	<p>の項目について自己評価を5点満点で記入するものである。以降、毎週最後の登校日の帰り学活で振り返りの記入をしている。そして翌週の最初の登校日の朝に見る黒板メッセージは、この集計結果とこの結果から考えることを書いてきた。また、毎月発行している学級通信では、各週の集計結果と学級の様子を書いてきた。生徒の意識向上には良い実践だったと思う。</p>	<p>A</p>
<p>学校生活全般にわたり、積極的に生徒と関わり、週3回のペースで学級や生徒個人や集団を笑顔にするようなユーモアを交えたコミュニケーションをとる。</p>	<p>月4回は実施。生徒指導的な話をするのもあったので、週3回は実施できなかった。</p>	<p>B</p>

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 授業の中での話し合い活動やグループ活動を充実させ、日常的に人間関係が良好に保てるように取り組んでいる。
- コロナ禍で子供同士が近付いて話をする場面を制限する必要があった。しかし、担任は生活記録や学級便りを通して、温もりのある学級づくりに教員が一丸となって取り組むことができた。
- いじめ防止担当者を配置し、スクールカウンセラー等と連携した相談体制の充実や小学校との連携強化に取り組んでいる。

(2) 改善を要する点（課題）

- 保護者対象アンケートを見ると「附属中学校の生徒は、互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」に関する項目の評価が前期・後期とも肯定的な評価が60%台と低くなっている。学年団を中心に休み時間や昼休みは教室・廊下に巡視に行くとともに、学習活動・道徳等で心の教育を進めてきたつもりではあるが、更なる取組が必要である。
- 道徳教育や人権教育、情報モラル教育に力を注ぎ、人権意識を醸成し多様な価値感を認めるとともに、他者と比較しなくとも得られる自己肯定感を高める。
- 生徒にとって居心地のよい環境や雰囲気をつくるとともに、よりよい人間関係を築く力が身に付く指導を充実させ、いじめや不登校の未然防止に取り組む。

以上の内容を総合し、4段階中の「 B 」と判断する。

<p>自己評価の基準</p> <p>A 十分達成されている</p> <p>B 達成されている</p> <p>C 取り組まれているが、成果が十分でない</p> <p>D 取り組みが不十分である</p> <p>* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ</p>

重点目標3 基本的な生活習慣の徹底

あいさつができる，人の話が聞ける，時間が守れる，といった基本的な生活習慣がしっかり身についていることの大切さ，当たり前が当たり前でできることが学校生活の基本であり，そうした規律を土台としての仲間づくりが大切であることを伝えてきた。あいさつの大切さ，1日はあいさつで気持ちよく始めたい，という思いを共有して，朝は，さわやかなあいさつを心がけるように，教職員も積極的に子供たちにあいさつをした。校内で出会う，外来者も含めたすべての人にも積極的にあいさつができるよう全校に呼びかけた。

「人の話が聞ける」ということを生徒指導の中心に据えて取り組んだ。このことの重要性をしっかり担任を中心に子供たちに語ってもらった。人の話がきちんと聞けるということが他の生活習慣の根本であるとの思いから，学校生活のなかで，そのような場面がないか，確認し合った。

時間を守ることについては，朝の登校はもちろん，授業においても1分前着席の徹底を呼びかけた。清掃活動は，コロナ禍の中，消毒もしなければならない箇所も多く，時間もかかり，大変であった。しかしながら，「清掃は心を磨く活動でもある」と言われるように，しっかりと清掃活動に取り組める態度の育成を目指した。教師が毎日，共に活動し，母校愛を育みながら，校舎内外を毎日美しくしたい，汚さないという思いも醸成したい。



2 評価項目の状況

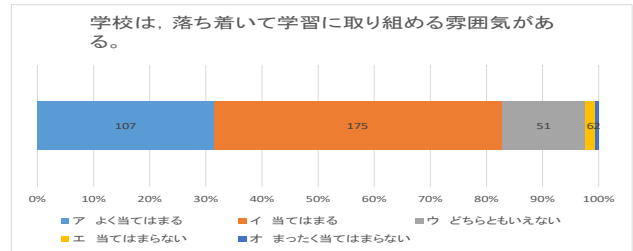
(1) 保護者対象アンケート

「学校は、落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある」

目標80%以上

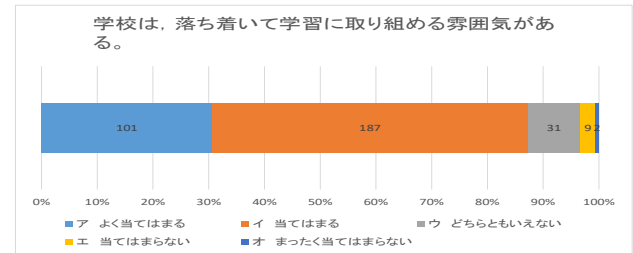
第1回（8月）82.7%（昨年度93.1%）

よく当てはまる	31.4 %
当てはまる	51.3 %
どちらとも言えない	15.0 %
当てはまらない	1.8 %
全く当てはまらない	0.6 %



第2回（2月）87.3%（昨年度92.8%）

よく当てはまる	30.6 %
当てはまる	56.7 %
どちらとも言えない	9.4 %
当てはまらない	2.7 %
全く当てはまらない	0.6 %

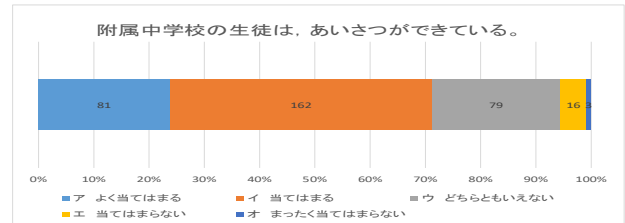


「附属中学校の生徒は、あいさつができています」

目標80%以上

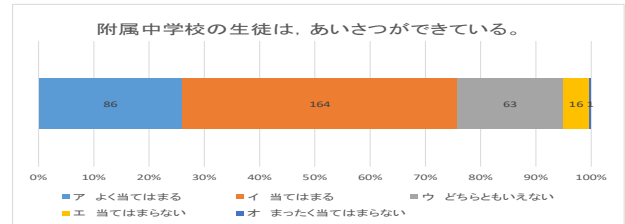
第1回（8月）71.3%（昨年度80.0%）

よく当てはまる	23.8 %
当てはまる	47.5 %
どちらとも言えない	23.4 %
当てはまらない	4.7 %
全く当てはまらない	0.9 %



第2回（2月）75.8%（昨年度83.9%）

よく当てはまる	26.0 %
当てはまる	49.7 %
どちらとも言えない	19.1 %
当てはまらない	4.8 %
全く当てはまらない	0.3 %

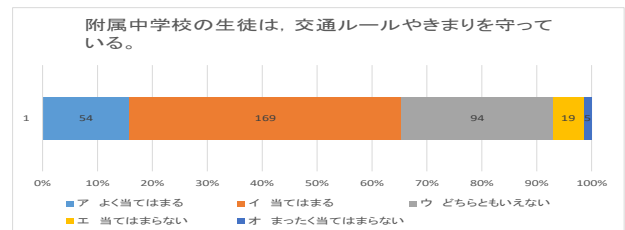


「附属中学校の生徒は、交通ルールやきまりを守っている」

目標80%以上

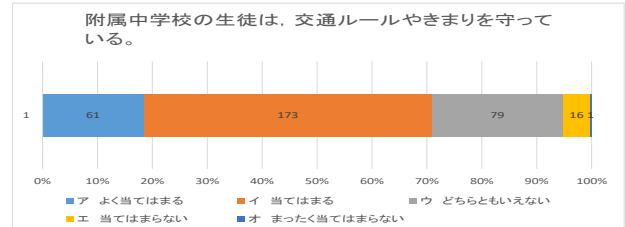
第1回（8月）65.4%（昨年度75.5%）

よく当てはまる	15.9 %
当てはまる	49.6 %
どちらとも言えない	27.6 %
当てはまらない	5.6 %
全く当てはまらない	1.5 %



第2回（2月）70.9%（昨年度75.3%）

よく当てはまる	18.5 %
当てはまる	52.4 %
どちらとも言えない	23.9 %
当てはまらない	4.9 %
全く当てはまらない	0.3 %



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 校内で出会う全ての人への元気なあいさつの習慣付け

当初申告	最終申告	評価
毎朝自分から挨拶する。授業，部活での生徒のあいさつを見取り，適宜指導する。	できるだけ笑顔であいさつするようにこころがけた。授業では，返答のないときには繰り返して元気づけた。部活では，生徒自ら元気よく挨拶するように指導を繰り返したが，なかなかこちらからしなければ生徒からはできない状況であった。	B
国語の授業の挨拶を丁寧に挨拶ができるように週に2回，できているか確認をする。	月曜日と木曜日は丁寧なあいさつができていないか確認し，授業でも挨拶について考えさせる授業をした。生徒たちは自らの挨拶の仕方に課題を感じながら改善していこうとする姿勢が見られた。	B
まずは自分から生徒にあいさつをし，生徒にあいさつを意識させる。また，授業前後のあいさつも大切にし，声に出してあいさつをすることを習慣づける。	あいさつを意識するように生徒へ声をかけることはできた。しかし，授業の開始や終了の挨拶でも生徒から大きな声で挨拶ができていないと感じることは少なかった。今後は教員が声掛けを行うだけでなく，なぜ挨拶をすることが大切なのかという根本的な所を生徒に考えさせたい。	B

イ 時間の厳守や清掃等，決められた事が確実にできる集団づくり

当初申告	最終申告	評価
毎日，昼休み（特にトイレ）の巡視を13：20まで行う。	毎日，昼休みは巡視することができた。4月当初，昼休みは男子トイレに多くの生徒が集まって騒ぐ姿が見られたが，現在はそのような様子は見られない。また，トイレでのトラブルは発生していない。	A
5分前行動，1分前着席が徹底できるように継続して声かけをする。	授業移動5分前，1分前着席が徹底できていたとは言えない。常時声掛けをしたが，クラス全体で余裕をもって行動しようとする姿がみられることも増えてきた。	A
学級目標を達成できるように，週に1回の帰り学活で学級目標を確認させ，他人を思いやれる教室を作る。	毎週金曜日に週目標を達成することができたかを確認し，学級目標を絡めながら生活を正す大切さについて話すことができた。	B
毎時間授業の始めに，学習の用意ができているか，必要のないものは片付いているか，確認する。	授業開始5分前までには教室に行き，生徒の机上の様子を観察した。準備ができていない生徒には，休み時間中に声をかけた。	B

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 生徒会の幟を持つての毎朝の挨拶運動の成果もあって、朝のあいさつができる生徒が格段に増えてきた。教室に入る際も、自分からすすんであいさつのできる生徒が多くなり、さわやかなあいさつにより気持ちのよい1日のスタートとなることを実感できる雰囲気広がってきた。
- 限られた時間内の清掃活動ではあるが、チャイムが鳴ったら清掃場所に早く行き着く生徒が増えてきた。
- 時間の厳守、人の話を聞く、という点においては、子供たちに常に話してきた結果、ほとんどの生徒が実行できるようになった。

(2) 改善を要する点（課題）

- 朝のあいさつや、校内でのあいさつは大分できるようになったものの、関わりの少ない先生や来校者の方にはまだ十分とは言えなかった。
- 清掃活動への取組は、前向きに取り組める生徒が増えたが、まだ、させられているという感じの生徒も見られる。より美しく、工夫した取組ができるように意識を向上させたい。
- 保護者対象アンケートを見ると「附属中学校の生徒は、あいさつができています」「附属中学校の生徒は、交通ルールやきまりを守っている」に関する項目の評価が前期・後期とも肯定的な評価が低くなっている。ルールの意味を十分に話したり、指導したことは学校全体での指導の基準をあわせたりするなど、根気強い取組が必要である。

以上の内容を総合し、4段階中の「 B 」と判断する。

自己評価の基準	A	十分達成されている
	B	達成されている
	C	取り組まれているが、成果が十分でない
	D	取り組みが不十分である

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資料名	備考
1	1・2・3	参考資料1	○		令和3年度学校評価アンケート結果 (保護者対象アンケート集計結果)	
2	1・2・3	参考資料2		○	教職員対象自己申告による目標管理自己 評価結果	資料回収
3	2	参考資料3		○	令和3年度学校生活アンケート集計結果	資料回収
4	1・2・3	参考資料4		○	令和3年度オープンスクールアンケート 結果	資料回収